

令和4年度〈2022年度〉第1回伊丹市立総合教育センター運営協議会 議事録

日 時 令和4年〈2022年〉6月27日〈月〉

場 所 伊丹市立総合教育センター 2階 講座室

委 員 深野 康久委員〈会長〉、村上 順一委員〈副会長〉上田 幸治委員、
藤本 若菜委員、垣内 修委員、米田 博一委員、久田 浩嗣委員、
西本 大和委員、馬場 一憲委員、廣重 久美子委員

事務局 永嶺 香織、奥野 隆哉、戸田 征男、中田 智継、長谷 慎一、
増田 康児、片岡 栄二郎

1 総合教育センター所長あいさつ

2 会長あいさつ

3 議事

〈1〉組織図

令和4年度総合教育センター組織図を載せている。大きな変更は無い。

ただ、GIGA スクール構想により、今年度から ICT 支援員をさらに3名増員し、全員で7名の配置と、人員が増えているところが1点。

もう1点は、後程ご説明するが、事業拡大により教育支援センターの指導員も1名増員という形で、組織のほうは少し増強をしている。

〈2〉事業体系、事業活動状況統計

令和2年度と比較して令和3年度は、研修もほとんど無事に実施することができ、1年間終わることができた。

今年度の事業体系を載せている。今年度についても大きな変更点は無い。詳細についてはこの後各担当からご説明する。

【Ⅰ研修】

研修について、先ほどもご挨拶の中で申し上げたが、やはり国の動きも勿論のこと、伊丹市の課題に対応した研修を主要施策として置いている。ICTも入ってきており、そちらの方も大切だが、それ以外にも様々な課題に対応した研修を実施していく。

【Ⅱ調査研究】

校内研究の活性化に向けた支援のあり方、校内研究について、私たちが、どんな支援ができるかということを調査研究するというようなものである。

二つ目は、事業におけるタブレット活用研究のまさに GIGA スクールに対応した研究を行っている。

三つ目が、教育支援センターにおける効果的な支援としている。

【Ⅲ教育の情報化】

続いて、教育の情報化については、情報活用能力の育成と校務の情報化という二つのカテゴリーに分けて、学習指導要領に示された資質能力を育成するために、学びの道具として ICT をどう使っていくかという活用を進めるとともに、これまで校内無線 LAN の整備、1人1台タブレットの整備、また、オンラインに必要な機器等や、授業支援システムも学校の方に整備した。

今年度は、先生方用の指導者用の端末をようやく整備するところに至り、今、行われている6月の議会では、子供たちのデジタル教材についても上呈しているところである。

少しでも先生方の学校での環境が整うようにというところで今進めているところであり、その辺りの環境整備も含んでいる。

【IV教育相談 V不登校支援】

児童生徒への支援ということで、これについても継続事業となるが、多様な子どもたちの支援の充実を図るために、運営方法をいろいろ見直し改善しながら進めて行きたいと思う。

〈3〉事業別令和4年度の成果と課題について

I 研修

「職務研修・一般研修、授業力向上〈カリキュラム〉支援センター」について説明

II 調査研究

「校内研究の活性化に向けた支援のあり方、授業におけるタブレット活用研究、教育支援センターにおける効果的な支援」について説明

〈質疑①〉

本校職員の意見だが研修に受講させていただき、また指導力向上に努めていきたいということだったが、出張と重なる等、なかなかタイミングが合わず、研修に参加できないこともあった。今、ICTが進んできているのもあるので、動画視聴等そういうものを申し込んでできるようになればうれしい、という意見があったので、ご意見お聞かせいただけたらと思う。

〈回答①〉

動画については、まずは講師の先生とのご相談になるかと考えている。

研修の内容についても、その動画の中身で学びが得られるものもあれば、その場でグループワーク等を入れる先生方もおられるので、一概にすべてが可能というわけにはいかないが、講師の先生ともご相談をしながら、そういった形も考えてきたいと考えている。

〈意見①〉

まさにコロナの成果で、会場に行かなくても、会議ができ、研修に参加でき、或いは後で自宅、職場でも、動画で撮っておいたものを後で見ることが可能になったので、これはしんどかったコロナのおかげで、ちょっと得かなと思っている。ぜひそんな形で、進めていただけたらと思う。私自身も、動画をそのまま制限なしに流されるのもちょっと、という思いも無きにしても非ずで直ぐではないが、そのあたりでお互いにうまくしていただき、ぜひ進めていただきたいと思う。

〈質疑②〉

毎年夏にこうして研修を組んでいただき、若い先生からよく聞かれるのは、どの研修がいいか、ということ。たとえば、何か売りみたいなものを明確にしてもらえると、若い先生方も、ここに行けばいい、というようなことが分かるのではと思う。今、一枚の用紙にずらっと書いてあるという形なので、そのあたり何か工夫があったら、もっと受けたいと思う人が増えるのではないかなと思うので、もし可能ならお願いしたい。いろいろ本当に書いていただいているがパッと見たときに、なかなか選びにくい。

〈質疑③〉

以前から話題になったのでご質問も含めてだが、自分が教頭の際はミドルリーダー研に参加をしていて、小学校、中学校のミドルの先生たちとグループで研究を深めたりしたことが、非常に自分が今園長になってから視野が深まって、すごく今の自分の糧になったという気がしている。

今幼児教育センターができたことで、基本的な研修は幼児教育センターで受けることになったと同時に、逆にこういった総センの方の研修の方にはあまり参加できなくなったというか、申し込めばできる部分と、ミドルリーダーなどはもしかしたら参加できるのか、その確認をしたい。

これから、特に昨年度は、笹原や摂陽とかどどんなくなってって、ますます小学校の先生との距離が少しずつ空いてきていることを実感しているの、先生同士の研修をともにしたり、畑を超えた先生たちとともに勉強したりすることがすごく幼稚園にとってはありがたいかなと思っている。

そういうことを含めてミドルリーダーのこと等また教えていただければ嬉しく思う。

〈回答②〉

幼児教育センターが現在、主体となって年間複数回の研修会を実施されていると聞いている。一方でミドルリーダー養成研修は、これまでも学校園長のご推薦をいただいてからご参加いただくというような形をとっている。従って、その先生方1人ひとりの負担というものも、考えないといけないところから、数年前にミドルリーダー養成研修は、小中特別支援高等学校の方の教員対象ということにさせていただいた。

そういった先生方のご負担ということも、考えた上で、本日いただいたご意見をもとに検討していきたいと思う。

〈意見②〉

幼稚園から小学校、小学校から中学校、中学校から高等学校を渡るときにギャップがあって、というのも一つの社会的な世の中での教育課題の一つが、ギャップということがあるので、また今のご意見をどこかでうまく吸収して、発展した研修ができるような工夫をいただけるといいかと思う。そういう問題点は、先生同士が先に段差がなくなったほうが早いような気がしている。

〈回答③〉

ミドルリーダー研の内容をご理解いただいて、そのように先生が接続の部分ということをお願いいただき、私たちも最初、センターが分かれた段階で、どういう形かということになったが、分かれて一旦、研修を実施してみた結果、やはり共同で研修を実施していく方が望ましいということも先生のご意見を伺って改めて思ったので、今後の研修については、担当の方とまたご相談をさせていただきたいと思っている。

〈意見③〉

今ご説明いただいた中で、感想も含めてのところもあるが、普段企画・運営していただいている研修について、オンライン等形を変えてでもしていただいているというところは、大変ありがたいと思っている。今、学校現場では非常に若い先生が多くなってきているということがある、そんな中、それぞれこの先生方にはこういう研修が必要であるというようなことを考えそれぞれのライフステージに合わせた研修をたくさん企画していただいていることは、先生方の力をつけるのに非常に効果的でありありがたいことである。

また講座の内容も非常に多彩であって、内容によっては単年度で終わらない研修、1年次、2年次、3年次としながら、を育てていくようなミドルリーダー研修についても、お力添えいただいて

いることは、これから後に伊丹を支えていく先生方を育成していくという点では非常に、工夫していただいていると考えている。

一方、カリキュラム支援センターの方では、非常にコンサルティング機能を十分に発揮した継続的な指導していただいている。本校にも随分来ていただいているのだが、職員自身が次に授業をするときに、コンサルタントの先生に認めてもらえた、前回これができなかったのに今度これができるようになったというふうな褒め方をしてもらっている。あとこれが出来たらもっと良くなる、というふうに言っていただくことで、次の目標を持てるというのか、その先生たちがやる気を起こすような示唆をいただいているということで、大変感謝しているところである。

調査研究についても、特に校内研究の支援をしていただいている。

昨年の研究発表会は、結果としてオンラインでしかできなかったが、それに向けても相談に乗っていただき、本年度から新たに始めた研究についてもご支援いただきながら、若い研究担当の先生も、ベテランの先生もそれぞれ自信を持って、励まされながら次に進んでいけるという、すごくいい感じで進んでいると考えている。

この五つの体系の中でも常に学校を励ますような、先生方が励ましてもらえるような研修や、支援していただいているということは大変ありがたいと感じるところがある。

Ⅲ 教育の情報化について説明

〈質疑①〉

教育の情報化が非常に喫緊の課題であるが、いかがか。

言える範囲で結構だが、情報モラルやセキュリティ、或いは機器のトラブルも含めて、事件、事故というようなことは何件起こっているか、学校状況はいかがだろうか。

〈回答①〉

具体的な件数に関して把握できてないところがあるが、もう起こっている内容で聞いているのが、タブレット端末独自機能としてカメラで動画や写真の撮影ができるのだが、友達が嫌がるような不適切なものを保存したり、一部授業用、学習するために友達と交流できる機能があるのだが、教師がちょっと目を離したときに、友達と不適切なやりとりをしたりという事例はある。

そういったものに関しては、それぞれの学校で起こった時にその場で指導し、場合によっては保護者の方の指導も含めながら適切に対処している。

〈意見②〉

大阪府のある校長からお聞きしたのは、何か起きたときには、教育委員会の指導担当課の方の一番になってそれについて個別に対応する、一方では、センターが全体的な研修なり、配置事業なりを行っているところに齟齬ができてしまい、担当課とセンターとが同じことを言っているのだが、その学校の研修にとっては今起きていることそのものを沈静化するのが先であるのに、センターが出てきて、その学校としてはかえってわかりにくいことがあったということだ。

十分に連携をして、学校にとって教育の情報化については一本化した施策、担当課と組んだ施策というのが欲しいというようなことがあったのでお聞きした。

今後、学校の状況で情報化については負の現象があるため、その負の現象を、ある程度意識をしていかないと、個別の学校によっては辛いことが起きてくるということを申し上げたかった。次回そういうことを話し合うときに、どのような形で学校を指導する担当課と連携して指導している、というように、スタンスがあると、より学校にとってはプラスになるのではないかとことを少

し感じた。

〈質疑②〉

もし可能であれば、今後考えていただきたいのが、クラウドの利用である。クラウドの利用が一つ。もう一つが、今のシステムでは、子どもたち同士の共同作業が少しやりにくい感じがある。何かいい方法があれば、また皆さんに周知していただければと思うのでお願いしたい。

〈回答②〉

クラウドの利用と、子ども同士のチャット的な交流を図るような機能のことか。

〈質疑③〉

共同編集モードでやる際にもう少しスムーズにできる共同編集機能があったら良いと思う。

具体的に言うと、理科の実験結果を一つのシートにまとめるために共同作業したのだが、その際、ある子が書いて、違う子が消してなかなか進まない、となり、なかなかうまく共同作業ができなかった。そのため、何かいい方法があればまた教えていただきたい。

〈回答③—1〉

クラウドの利用の部分に関しては便利さとセキュリティ面との関わりが出てくるかと思う。今現在、クラウドという意味では、例えばスクールタクトもそれに当たるが、使い勝手の部分とセキュリティの点検を合わせながらよりよいものを選んでいきたいと思っている。

子どもの共同作業の部分に関して、授業の内容、目的の部分にもよってくると思うので、この場合はこう、というのは難しい部分があるが、具体的に、この授業でいえばこんな方法がある、というように、お聞きいただいたらお伝えできる部分もあるかと思われるので、授業の相談等も場合によっては、と思っている。

〈回答③—2〉

先ほど調査研究でも少し触れたが、各学校の事例を集めており、共同編集モードでうまくいっている先生方の共通する部分は、その授業をされる前に約束事として、人が書いたものは安易には消さない、悪口は書かない等をご指導された上で、そのような共同編集モードをされたら比較的スムーズに授業進行されていると感じている。

これは、模造紙などの共同で今まで作業してきたことと共通する部分もある。他者の意見を勝手に消してしまう児童生徒はいたが、指導を行うことで改善されると考える。

IV 教育相談について説明

V 不登校児童生徒の学校復帰支援について説明

〈質疑①〉

関係機関や学校園との情報交換を行うと書いてあるのだが、昨年度学校と、相談にこられているお子さんや保護者のことに関して情報交換は何回ぐらいされたのか。

〈回答①〉

明確な数字として今出してはないが、20回前後学校の方に私がケース会議に参加させていただい

たり、学校の先生にこちらにお越しいただいたり、基本的には保護者の了解を得た上で、それから情報交換を実施させていただいている。

〈質疑②〉

相談員は、保護者や子どもの様子、保護者の話から、学校での様子が分かり、それで相談活動に当たられていると思うのだが、中には、それだけではなかなか学校での様子や、問題が起きている様子がわかりにくいことがきつとあるのではないかと。保護者から聞いたことから想像して相談活動に当たられている場合もあるのではないかとと思うのだが、適切に相談活動していくにあたり、学校からの情報もあり、保護者や子どもからの情報もありという方が、適切に相談活動を進めていけるだろうと思う。できる限り、そういう機会が増えていけばいいなと思っている。

こちらにも課題に書かれている、今後の関係機関等との連携が書いてあるが、なかなか学校からは、誰がここに相談に来ているのか分からない場合も多々ある。相談を受ける段階で、学校と情報共有をしても大丈夫かということ事前に聞いておくなど何らかの方法で、情報がうまく共有できて、より適切な相談に繋がっていけばありがたいなというふうに思っているので考えていただきたい。

〈回答②〉

現在、こちらの見立ての上で、学校でどのような支援につなげるということは、共有できることがあれば共有したいという思いで、最初のインテークのときに、学校との連携はOKかどうかというのはもう聞いている。

やはり相談という体制の中で個人の情報を守るということで、保護者の方が、いや、学校には言わないで、という家庭も当然あるので、そこはOKを取ったか、取っていないかというところで私たちは動かさせていただいている。ただ、OKをもらえたところで学校とのご協力も必要なところはまたいろいろご相談させていただきたいと思っている。

〈質疑③〉

生徒指導主事を学校の中でさせていただいており、総合教育センターと連絡を取らせてもらい、やまびこ、メンタルフレンドとお世話になる機会が多いのだが、不登校の生徒を抱えている若い先生方と話す中で、やまびこや別室登校、医療心理相談といった話をした時に、そういうものがあるのかと、反応されることが多い。4月に毎年、自分の学校だけで職員研修、生徒理解研修をする時に、こういった関係機関があること、市の子ども福祉課であったり、川西子ども家庭センターであったり、関係機関を一つひとつ説明しているが、若手研修など、総センの関係機関のことについて、また具体的にこういう機関でこういう子がお世話になっていて等、そういうところをもっと入れてもらえたら、若い先生方も関係機関について、理解が深まるのではないかと。またうまく連携に繋がるのかと思いき意見させていただいた。

〈回答③〉

教育相談についてはまず先月の時計台等で周知させていただき、また生徒指導担当者会に参加させていただく際に随時、相談機関のこと等、連絡できることをする中でまた今後周知していきたいと思う。また若手の先生はどうしても知らない機会が多いと思うので、今後の研修でもまたそういった形は検討していきたいと思う。

〈意見①〉

教育相談、或いは個別の支援の中で、コロナによる影響とつい言うてしまうのだが、その中身は少し洗っておいた方がいいのではないかなと思っている。

これは府立の高等学校の話だが、ある方が一生懸命それを洗ってみた時に、コロナの影響というが、中身については随分違うよという話を聞いた。

例えば、学校の休校を随分していたので、子どもたちが、それで学校で学んでいく、続けていく気がなくなってしまったのは、やっぱりその休校が問題だというような一つの流れがあると。

ところが、一方では特に高等学校の場合だが、保護者の経済的な問題があつて学校に行くところの騒ぎではなくなったと。つまり、経済的な問題だというような見立てが出てきた。

そしてもう一つは、高校生それから大学生がコロナが怖いから学校へ行けないという子が今出てきており、数は少ないが、どうしていくかというような課題になっている。大阪府立の高等学校と大学との関係の中でそんな話をきて、コロナの影響というが、そこはやはりもうちょっと見ないといけないと感じている。コロナの影響で、どのようなことがあり、それらにどう対応するかというようなことが、教育センターなり指導課なりが持っていかなければならない方向性かなと思っている。冒頭に申し上げたコロナでの学びは、何かその辺りにあるのではないかな。

〈質疑④〉

教育の情報化、課題の④のところ、年度末更新など、これを挙げられている。

実際保護者が使っているグーグルクラスルームのところの表示が、年度末、年度が変わったが、しばらく変わらなかったという部分があったのだが、来年度に向けて、そのあたりをどうしていかれるのか、課題として挙がっているのに、ここにどういうことをされるかが上がってないというのが気になった。いかがだろうか。

〈回答④〉

もともとそのクラスルームのところ、新一年生が入ってくるという形で、仮クラスルームというのを設置して行っているところである。年度切り換えのクラス編成があるので、5月中旬くらい、そのくらいまではこの中の編成には、ちょっと作業を要するということだったのだが、学校全体であったり学年であったりところは、割と早い段階で、対応はできていたのかなというふうには思っていたのだが、表示に何か問題があったのだろうか、どうなのか。

〈質疑⑤〉

例えば特別支援学級であればどうか。

〈回答⑤〉

確認させていただきながら進めていきたいと思う。学校からまたいろいろと情報を吸い上げながらの対応という形になるので、できるだけ早い段階で、年度の切れ間なくできるように検討していくのでよろしくお願ひしたい。

〈意見②〉

働き方についての調査研究等、先ほどの教育の情報化の中で使って効率化ということも言われているので、何かいい方法がないか。実際問題人不足ではないか。現在、それを何とか解消できないかなと思う。

何かいい方法があったら、また何かしていただけたら、考えていただければと思っている。

〈意見③〉

教育総務部の働き方改革で、今なかなか教員の欠員が埋まらない、年々それが拡大しているところが課題だと思っている。

そういう意味では、ひとつでも働きやすいように、色々なことを変えていく。先ほどの声、研修もオンラインですることによって楽になる、会議もオンラインですることによって楽になる、スクールサポートスタッフであるとか ICT 支援員が増えるということでの、楽になっているようなところも、少しずつはあるのだが、進んでいっているつもりではある。なかなか特効薬がないなというのがあり、一方ではそういった努力をこつこつしながらも、やはり処遇改善、いわゆる給与の制度のあり方であるとか、その辺りも含めて、国の方に要望もしていく中で、先生になってくれる、そこでいろいろやっていきたいという希望を持てる若者を集めていけるような環境は作っていきたいと思っている。

〈意見④〉

機器の機械的なトラブルがあった場合には総センの方で対応するのだが、そこに生徒指導が絡む場合というものは多分にあるなと思っている。

先ほどの、写真等いろいろやりとりが、というのも、道具が、タブレットであったりスマホであったりということではあるが、やはりその背景は、人間関係であったり、人を思いやる気持ちであったり、そういうところの指導が大きく占める場合があるなと思っている。学校教育部の中で、総センと、生徒指導担当をしている学校指導課とのやり取りを、今もしているところだが、より重要になってくるのだなと思ったので、そこをきちんとしていきたいと思う。

また、コロナによる影響ということも、本当によく使いがちである。しかしその中身が、その中の何なのか、それはコロナに見えて違うことなのかという見極めは、改めて大事ななどはとさせられたところである。

そういうところも、総センの、調査にしても研究にしても情報にしても、いろいろなことの中で解決を図って参りたいと思うので、またご指導をお願いしたい。

〈意見⑤〉

もうコロナのせいで、と言って逃げられないような状態になった。これまでは、若干コロナのせいで何とかができない、と私もよく使ったが、もうそれができなくなったというところでは、これからの頑張りだと思う。

4 副会長あいさつ